

団体名：特定非営利活動法人周南いのちを考える会

活動名：ホスピス（緩和ケア病棟）の設立促進活動

代表者名 / ^{まえかわ} 前川 ^{いく} 育

所在地 / 下松市生野屋西3丁目6 - 13

活動紹介

活動の目的

山口県東部には、がんになったときに、最期までより良く人間らしく生きることのできる「ホスピス・緩和ケア病棟」がありませんでした。

患者はがんの痛みを耐えながら生を終えることが多く、是非、地域に「ホスピス・緩和ケア病棟」をとの願いから活動を始めました。

また、がん患者は孤独の中で悩むことも多いので、心の交流と支えあいの場として患者会活動をしています。

これまでの活動の様子（内容）

2001年に設立

2002年2月NPO法人設立総会

代表の前川が、がん体験の際、同室の女性患者のがん末期の痛みや苦しみをみて、地域にホスピス・緩和ケア病棟が欲しいという願いをもち、会の活動を始めました。

設立当初は、「ホスピス・緩和ケア病棟」という言葉は、あまり知られていませんでしたので、まず地域の皆様にこのことを理解していただくことから始めました。講演会・学習会・ホスピスケア講座では、第一線で活躍中の先生方に来ていただき、いのちについて・がんについて・生と死についてなどの学びの場を提供してまいりました。

会員対象に上記以外、緩和ケア病棟見学・会報発行・患者会などを行っています。

特記すべき点は、2002年の「山口県東部に緩和ケア病棟設置」を求めての署名活動です。人から人への輪が広がり、2ヶ月半で2万5千人の署名が集まりました。その署名を二井知事さんへお届けしました。この署名活動の展開でホスピス・緩和ケア病棟の存在が知られるようになりました。

講演会は、毎年、1000人近くの方の参加があります。「生きること・いのちの大切さ」を考えていただけるきっかけになればとの思いで開催しています。

患者会は、1ヶ月に1回、8人くらいの参加で、語り合い支えあう場となっています。

ただ、残念なことにこの7年間に何人もの患者会の仲間が、「緩和ケア病棟設置」を願いながら亡くなっていかれました。時に、独り暮らしの患者のサポートをすることもあります。

今年、特例病床25床が認められ、念願の「県東部に緩和ケア病棟開設」の見通しとなり、ひとつの区切りがついた感があります。

今後の展望

今年度は従来どおりの活動を続けます。

来年度は病棟開設が決まり次第、「市民のためのホスピスケア講座」を「ホスピスボランティア養成講座」とし、ホスピスボランティアの勉強を始めます。

病棟開設後は病院スタッフと連携をとりながら、患者さんの心にそっと寄り添えるボランティア・優しいそよ風のようなボランティアとして、お役に立ちたいと思っています。

ホスピスの種が、花を開こうとしている今、本当に大切なことは何かをしっかりと考えてこれからも社会に役立つ会を目指し、頑張ってゆきたいと願っています。



【周南いのちを考える会会員】



【ホスピス(緩和ケア病棟)見学】